

学校心理士会神奈川支部ニュースレター

第 12 号



2012年9月9日発行
発行責任者 岡田守弘
芳川玲子
〒259-1292
平塚市北金目4-1-1
東海大学文学部心理・社会学科

『心理師（仮称）』の国家資格制度、ガイダンスカウンセラーについて

支部長 岡田守弘

日本学校心理士会ニュースレター第48号の『「ガイダンスカウンセラー」と「心理職」（仮称）の動向～学校心理士の近未来に向かって～』（石隈利紀会長）には、心理職の国資格化への動向とガイダンスカウンセラー事業の経緯が掲載されています。

心理職者の国家資格化への具体的な取り組みの一つとして、臨床心理職国家資格推進連絡協議会、医療心理師国家資格制度推進協議会、日本心理学諸学会連合（日本心理学諸学会連合には学校心理士認定運営機構を支える6学会が参加しています。）の三団体の主催で、2012年3月27日（火）16:30～17:30に、衆議院第1議員会館地下1階大会議室で「心理職の国家資格化を目指す院内集会」が開催されました。400名を超える心理職当事者が80名を超える国会議員と100名を超える議員秘書を迎える会になりました。

ガイダンスカウンセラー資格認定は6資格の認定に関する団体の連合体（「スクールカウンセラー推進協議会」）によって、学校心理士等のスクールカウンセラーへの雇用とガイダンスカウンセラー事業の推進等を目指して創設されました。

このように、学校心理士に関わる最近の動きについて情報収集に努める必要がありますので、学校心理士認定運営機構、「教育・発達」心理資格協議会、日本臨床心理士会のホームページをご覧ください。いずれにしても、学校心理士として、研鑽を積むことが重要であり、神奈川支部の会員同士が刺激し合い活発に活動していくことが期待されています。

平成24年度神奈川支部総会 報告

1. 日時 6月24日（日） 14:00～14:30
2. 場所 かながわ労働プラザ（エルプラザ）多目的ホール
3. 総会の議事と審議結果
 1. 開会
 2. 支部長挨拶 岡田守弘（支部長）
 3. 議長選出 荒木順司 氏を選出

4. 議事

- (1) 第1号議案 平成23年度事業報告並びに決算・監査報告について・・・承認
- (2) 第2号議案 平成24年度事業計画並びに予算案について・・・・・・・・承認
- (3) 第3号議案 新規事業について・・・・・・・・承認

(参考)

1. 平成23年度事業報告

(1) 総会 第13回総会 平成23年6月19日 かながわ労働プラザ

(2) 研修会

第27回研修会 平成23年6月19日 かながわ労働プラザ

テーマ「子どものこころが不安に覆われた時

ー学校がこころの支えになるにはー」

講師：玉井 邦夫（大正大学）

南関東ブロック研修・第28回研修会 平成23年10月16日 ウィリング横浜

テーマ「台湾の特別支援教育～システム、インクルージョン学級、訪問療育～」

講師：曹 純瓊（輔英科技大學）

通訳：芳川 玲子（東海大学）

第29回研修会 平成24年2月26日 かながわサポートセンター

テーマ「川崎共生・共育サポートプログラム

～いじめ・不登校のない学級づくりをめざして～」

講師：小川 俊哉（川崎市教育委員会 教育改革推進担当課長）

2. 平成24年度事業計画 [研修会]

南関東ブロック研修・第30回研修会 平成24年6月24日 かながわ労働プラザ

テーマ「通常の学級における支援教育のありかたについて

～授業のユニバーサルデザイン化～」(14:45～16:45)

講師：関戸 英紀（横浜国立大学）

第31回研修会 平成24年10月14日 ウィリング横浜

テーマ「自閉症の理解と支援（仮題）」

講師：木村 順（療育塾：ドリームタイム）

第32回研修会 平成25年2月24日（場所 未定）

テーマ「SSWの活動と学校心理士（仮題）」

講師：鳥海 佳奈枝（神奈川県SSWスーパーヴァイザー）

3. 新規事業について

試験・レポートのサポートなど、学校心理士資格をとりたい人へのサポートについての企画を考えていることが、口頭にて提案された。



第30回研修会報告

日時 平成24年6月24日
場所 かながわ労働プラザ（エルプラザ）

通常学級における支援教育のあり方について ～授業のユニバーサルデザイン化～

講師 横浜国立大学 関戸 英紀 先生

【研修の概要】

通常学級における支援のあり方について、図1に沿って、具体例と効果が示された。

1) スクールスタンダードの策定

スクールスタンダードは学校全体で一人ひとりの児童生徒を育てるための規準（手本、規範、規律）であり、発達障害のある子どもにとって生活しやすい・学びやすい環境を作ることを目的として策定する。給食の準備、清掃の手順、靴の置き方、ロッカーの整理の仕方などの例が示された。

2) 授業のユニバーサルデザイン化

授業のユニバーサルデザイン化は、特別な教育的ニーズのある子どもには「ないと困る」支援であり、どの子どもにも「あると便利な」支援として考える。すべての子どもが学びに参加できる授業の工夫として、「複数の教材を用意したり、課題を小分けにする」「黒板の周囲には必要な物だけ掲示する」など多くの具体例が示された。

3) クラスワイドな支援から個別的な支援

学級の全児童生徒を対象として獲得させたい行動を支援し、その過程で、個別的な支援を必要とする子どもをみだし個別に支援する。その一例として、発達障害が疑われ離席の多い小学3年生A君とそれに追従する2～3名の児童がいる学級の事例が示された。

① **クラスワイドな支援** 担任教師は離席の多い3～4名の支援に時間を要し、他児への支援の時間が限定的であることも課題としていたため、宿題の提出、忘れ物、当番活動の遂行などについての自己評価（できたかなカード）を実施し、ポイントが貯まると表彰される支援を学級の全児童を対象として実施した。A君に追従する児童の離席は教師の注目を得ることが目的であったため、この支援により、離席に関する課題はA君に絞られた。

② **個別的な支援** A君を対象として、5分おきに注目して声をかけるなどの支援により離席が減少した。音楽室への移動遅れに対しては、リコーダーを苦手とした逃避と考え、AT（アシスタント・ティーチャー）による個別指導によって改善された。また、宿題をやっこないことも逃避と考え、A君専用シールを用いた宿題カードの使用で支援した。

③ **効果** 担任教師一人でなく AT と協力した支援が有効であり、A君の変化とともに学級全体にも望ましい変化がみられた。具体例が豊富に示され、参加者に有益な研修会であった。

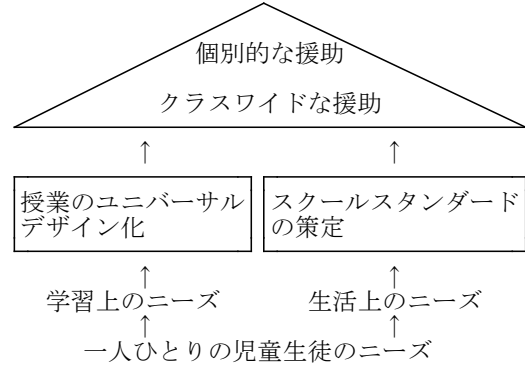


図1 通常学級における支援のモデル



日本学校心理士会年報 第4号（2011年度）の紹介

お手元に、日本学校心理士会年報 第4号（2011年度）が届いていることと思います。第4号では、震災関連特集が組まれました。「東日本大震災における子ども・学校支援の実際—子どもが学校生活の日常性を取り戻すための支援：さくらサポート—」「学校教員のための心のケア研修会の意義とその内容—東日本大震災における子どものための支援者の支援—」「子どもたちによる子どもたちへの復興支援の実践—復興教育の一つのかたち—」「被災地支援の方略と組織的展開に関する提言—東日本大震災での経験をもとに—」「日本学校心理士会による東日本大震災支援～子ども・学校支援チームを中心に～」が掲載されています。援助の継続性ととともに、年報にも震災関連の報告が継続されることが必要と考えられます。

2012年度（中部大学）大会レポート

2012年度大会（中部大学）に参加しました。「学校心理士のさらなる活躍の場を考える」をテーマとして、まず、会長による「今学校心理士ができる子ども・学校支援—危機の共有・責任の共有・希望の級友—」と題した講演、文部科学省生徒指導課担当者による「震災支援で学校心理士に期待すること」と題した講演が行われました。会長の講演では、学校心理士のさらなる活躍の場として「心理師」の国資格化についても触れていました。文部科学省生活指導課担当者の講演では、阪神・淡路大震災での震災後4年間、教育的配慮を必要とする子どもが増加し続けた事実を示し、東日本大震災での中長期的な援助の必要性を訴えていました。

続いて、「東日本大震災から1年、そしてこれからの1年—学校心理士の活動報告と今後の展開—」と題して、岩手、宮城、福島3県での復興教育支援の実践報告がありました。子どもがドリルに向かう時間を震災以前の日常につながる時間と捉えていること、放課後や部活動の時間がないこと、現地の教員も被災地外からの物品の贈呈式への参加要請など一方的な支援に疲れていることが指摘されました。印象的だったのは、岩手県では被害の大きかった沿岸部でのスクール・カウンセラーが不足しているため（臨床心理士が都市部にしかいないため）、現場教員を学校心理士として研修・養成し、沿岸部に派遣する事業を行っていることでした。

初日午後は、『「豊かに生き抜く力とは—生徒指導提要「社会的リテラシー」の意味するもの—』と題したパネルディスカッションと「特別支援教育で求められる学校心理士の専門性とは」と題したシンポジウムが行われました。パネルディスカッションでは香港での包括的ガイダンスプログラム、アメリカでのスクール・カウンセラーの役割、日本の学校現場での発達障害や規範意識の低下、瀬戸市商工会議所によるキャリア教育支援についての話題提供と討論がなされました。シンポジウムでは、台湾の特別支援教育（神奈川支部 芳川先生）、アメリカでのスクールサイコロジストの役割、愛知県みよし市での特別支援教育、大学の特別支援教育センターの役割について話題提供と討論がなされました。

二日目は分科会でした。来年度の大会は2013年8月10日(土)11日(日)に、「学校心理士のつなぐ力（仮）」をテーマとして、福岡での開催となります。（文責：樽木）

【編集後記】 神奈川支部ニューズレター12号を発行することができました。今回は、総会と第30回研修についての報告を中心に編集しました。年間2回のニューズレターを発行しています。研修の報告や各種情報をみなさまにお届けし、活動のサポートを行っていきたくと考えています。神奈川支部ホームページと合わせて、今年度もよろしくご協力致します。紙面に対するご意見ご要望をお待ちしております。また、投稿も歓迎です。E-mail: ryoshi@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp